

令和４年度 南信州民俗芸能推進委員会 会議録

日時：令和４年５月２３日（月）１０：３０～１２：００

場所：南信州広域連合事務センター２０６・２０７ 会議室

出席者：別紙のとおり

１ 協議事項

（１）第４号議案 令和４年度予算（案）に係る質疑内容

＜針間委員＞

令和４年度予算の収入の部で１５０万円の借り入れ、支出の部で１５０万円の借入金の返済となっているが、これはつなぎのための借入ということか。

＜事務局 齋藤＞

借入金の１５０万円は、県からの補助金である元気づくり支援金が入金されるまでの資金繰りとして借り入れるものであり、元気づくり支援金が入金され次第、すぐに返済する予定である。

（２）協議結果

全ての議案について、原案どおり承認された。

２ 意見交換

＜平松和合念仏踊り保存会会長（協議会会長）＞

今年は下條歌舞伎を見させていただいた。お子さんたちが一生懸命されていて素晴らしいと思ったし、末永く続いてほしいと思い鑑賞した。

大鹿歌舞伎は、遠方ということもあり前回に行けなかったのだが、今年はぜひ見に行きたいと思っている。

＜勝野新野雪祭り保存会会長（委員長代理）＞

新野の雪祭りが２年続けて中止となっている。次の祭りは何としても行いたいところであるが、コロナの状況次第であるため収まることを願っている。

３年ほど前に大鹿歌舞伎を拝見させていただいた。熱気のあるすごい祭りだと思った

＜清水黒田人形保存会黒田人形座座長＞

春の奉納公演について、２年前は中止、去年は小規模、接待・飲食なしで行った。今年はコロナ禍で稽古ができず中止にという話も出たが、寿式三番叟１回くらいはできるのではないかと、宵祭りは中止となったものの、本祭りに寿式三番叟を行うことができた。

＜針間南信濃遠山霜月祭保存会会長＞

まずはコロナによる公演の規模縮小について。

昨年の霜月祭りは、観客を一部制限、規模を縮小しながら実施した。高齢化が進んでいて元気がないところは、コロナを理由にしてなかなか元の祭りに戻らない。南信濃の場合、和田、八重河内、小道木、木沢の4か所あるが、木沢は元気がないようで心配している。コロナとともに伝承事業も続けていかなければと思っている。規模の縮小に伴い、夜中までやっていたものが早めに終わるのは楽なのだが、できるだけ本来の形に戻していきたい。

続いて遠山の霜月祭りの名称について。

南信濃と上村の二つの地区の祭りは、多少内容は異なっているが、合わせて遠山の霜月祭りとされている。小川先生からも、ユネスコの登録に伴い名称を統一するべきではと指摘されている。遠山の霜月祭りが文化庁に指定された時の名称。上村の方にも強いこだわりがあり、南信濃に対して上村という名前を冠に付けたため、そこを調整するべきではという意見が出ている。私共、南信濃の3つの保存会としては遠山の霜月祭りになりたいと思っているので、ご指摘、アドバイスいただければと思っている。

<小川アドバイザー>

1. パートナー企業制度について

マッチングをどうするかが一番の課題。保存団体の要望と登録企業とをどうつないでいくかというのがパートナー企業制度の実質化。長野県の場合、地域振興局と広域連合が中心となって登録制度という形で運用されている。宮崎県では神楽サポーター企業制度というのを作っているが、これは認証制度である。実績を見てサポーター企業として認証していくため、認証される企業はそこまで多くはない。登録と認証の違いは大きい。宮崎県の担当者と情報交換を行えば、それぞれのメリットデメリットが明確になると思われる。

それから企業への働きかけ。棚田学会という学会が石井進記念棚田学会賞という賞を作っている。十数年前になるが、大阪に本社のあるアストラゼネカという3,000人規模の会社が、CSR活動で社員全員が年1回棚田の保全活動に奉仕するという活動を行い、これに棚田学会が学会賞を与えた。当協議会でもパートナー企業の表彰制度を始めたが、もう一つ上の賞を作ることも検討してみてもどうか。

2. 配信について

コロナ禍によって、映像配信、ライブ配信が盛んになった。民俗芸能だけでなく舞台芸能もそうだが、国立劇場で公演しているようなものはかなりのものが配信されていて、有料化が進んでいる。民俗芸能の場合も2020年、2021年の動向をみると有料で配信しているところもある。

配信をするにあたっての大きな問題は、映像ではその場の雰囲気が伝わりにくいということである。カメラワークが重要で、遠くからずっと一本調子というのでは、見ている人の満足感につながらない。BS松竹東急というチャンネルで、過去の歌舞伎を配信している。撮影でなく映像配信をする段階で、アップにするなどの編集を行い、画面の工

夫がなされている。今後も映像配信は大きく進展し、むしろ定番となっていく可能性がある。南信州の民俗芸能でも、資金に余裕があればカメラ複数台による撮影など行えると良い。2020年に宮崎県西都市の銀鏡（しろみ）神楽では、カメラ2台で24時間通しのライブ配信を行った。こういったことは今後の大きな課題となる。

3. 全国発信について

ファンクラブの情報発信やホームページ「民俗芸能ナビ」を活用した全国発信ができているが、大変充実しているのも、今後も持続してほしい。様々な機会を捉えて全国発信していただきたい。

私に関わったもので共同通信社が去年から今年にかけて『未来へ結ぶ』という企画で民俗芸能継承の特集を組んだ。信濃毎日新聞社が遠山の霜月祭りを取材して1月22日に新聞掲載した記事を、共同通信社が全国の新聞社に配信し、全国の14の地方紙がこの記事を掲載した。機会がある度に私たちは南信州の情報を全国へ発信していく。地元でも情報発信に心がけていただきたい。

4. 祭りや芸能による移住促進という視点

先日、大鹿村で御柱と歌舞伎を見せていただいた。地元の方との話で驚いたのが、転入者が中心的な役割を果たしているということ。祭りや芸能は、転入者にとって地域との連携を作る良い機会となっている。このような機会は他になかなかないと思う。それぞれの自治体に移住促進の活動をしていると思うが、そのような視点で、祭り、芸能を地域活性化に活かしていくことを具体的に考えるといい。大鹿村では、外から移ってこられた方で、20年以上住んでおられる方もいらっしゃる。いい循環ができていないだろうか。

5. 上村青年会議の活動について

他の地域でも同じように、青年たちが独自に様々な活動をしている場面がある。上村青年会議の方々も信州以外の地域の方とのつながりを作っていただけると、情報の共有ができ、励みとなるのではないだろうか。

私の知っているところでは宮崎県の高原町に、国重要無形民俗文化財の「高原の神舞（たかはるのかんめ）」という民俗芸能があり、そのうちの一つの祓川（はらいがわ）神楽保存会の青年部が活発に保存継承と外部発信を行っている。そういったところは全国他にもあると思うので、これからの地域を担っていく上村青年会議の方々が、いろいろな場面で活動できるようになれば良いと思う。

<笹本アドバイザー>

今年はお練り祭りを開催できたことを大変嬉しく思う。櫻井先生をはじめとする熱意がそのまま、多くの人を集めることにもなった。その意味でも深く感謝する。

先ほど見せていただいた地域ごとの活動、例えば上村青年会議の皆さんの動きは、今後に大きな力となるのではないだろうか。コロナのマイナスの面ばかりに目を向けるのではなく、プラスに変えていかなければならない時期に来ている。祭りや芸能の大切さ

を再認識させてくれたのも、またコロナであったように思う。私たちはもう一度、必要なものを必要であると認識し、同時に、過疎化の中ではとても立ち行き難くなっていくことも事実である。残さねばならないもの、仕方がないという部分も考えながら進まなくてはならない。コロナの危機を、逆に再生するための手段にしていきたいと考える。

過日上伊那下伊那の観光の関係で講演を行った。その際も、いかに芸能や祭りが重要であるかを強く主張した。今年は櫻井先生のご尽力もあり、日本山岳修験学会が飯田で行われる。学会その他を通じて、地域のことを様々な形で主張していきたい。櫻井先生は芸能の中における修験の意識をお話しいただけるようだが、私たちアドバイザーの側も地域のお祭りについての意味付けをしっかりとしていきたい。

<宮田アドバイザー>

この2年間、コロナ禍の中で皆さんご苦労されたことと思う。ただ、今年に入って昨年、一昨年と比較すると、様々なイベント等も、マスクはしているが人数は通常に戻っている。今後のことはわからないが、祭りの場も以前と全く同じというわけにはなかいかないが、中止が主流となることはないだろうと思っている。こういった状況の中でできることをやるということを基本に置いていただきたい。

先ほど大鹿歌舞伎の無観客ライブ配信の話があった。芸を見るだけであればウェブでもかなりの部分が伝わるが、やはり大鹿歌舞伎の魅力はゴザに座って祭りを楽しむところに身を置くという空気感が重要だと思っている。状況次第ではあるが、そういう方向性を、是非追及していただきたい。

今年のフォーラムに関しては、風流踊りがユネスコ登録されるであろうという前提で計画されている。私が今まで係わった感触では、まず間違いないと思っているが、蓋を開けてみなければわからない。9月、10月頃になると情勢もわかってくるが、それまでの間は事務局としては万が一廃案になった場合のことも考えておいた方がいいかもしれない。今の審査状況は、完全に評価機関の評価に入っているので、文化庁には評価の詳細は伝わってきていない。ユネスコサイトの、2022年検討中のファイルの中に風流踊りがあがっており、ユネスコに出している書類は全てこのサイトから確認できる。審査の内容は、最終的に9月以降、評価機関の審査が出た段階で伝わってくる。そこまでは、公に登録見込みと言うのはどうかと懸念している。

小川先生から、上村青年会議の他地域との連携について話があった。以前だと日本各地に青年団組織があり、青年団の全国的な評議会も行われていた。青年団というのではなく、青年会議という自発的な組織ということであれば、是非自ら各地の情報を求めて積極的にネットワークを作っていただきたい。南信州は全国的に見ても民俗芸能に関して注目される地域であり、ネットワークの中心的な見本となり、リーダーシップを発揮できると考えている。

<櫻井アドバイザー>

先ほどからコロナの話が出ているが、やはり2年、3年中止となっているものもあり、大きな支障になりうる危険性があると思っている。また、簡略化してやるという通常とは異なる開催となっている事例もあるが、今後それが定着してしまうという可能性もある。いずれにしても、今回のコロナは歴史的に見ても大きな変換点になるのではないかと考えている。変化がやむを得ないとすれば、変化の様子をしっかりと記録していく必要がある。先ほどの上村の資料を見て改めて驚いたが、80歳以上の高齢の方が多く、10年後どうなるのだろうと考えてしまう。そういった点でも、記録というものは重要になってくると思う。

南信州民俗芸能資産化事業というものを新野の雪祭りと清内路の手作り花火で進めてきたが、こういった事業を同じように、あるいは国の補助事業を活用して行っていくのが必要ではないか。様々な補助制度がある。県の元気づくり支援金もそう。文化庁では地域の伝統行事等のための伝承事業というものを立ち上げているが、令和3年は65億という予算が付けられており、全国かなりの団体が申請している。残念ながら南信州は申請しておらず、長野県でも少ない。用具の整備、デジタル技術を活用した伝統行事等の公開支援、伝承者養成等の伝承基盤整備など、他にも様々な対象があるので、特に各市町村の担当者の方はそういったものにも目配りをし、保存会と連絡を取って有効に活用していただくと良いのではないかと。

また、かつて南信州民俗芸能継承推進事業の中で、フラッシュ撮影を禁止することで、よりよい観覧環境を確保し、本物の芸能を見ていただくということに取り組んだ。新野の雪祭りと天龍村の霜月神楽に関してはそれを考慮した照明器具を整備するなどしている。側面的なことにはなるが、こういったことも、よりよい環境で民俗芸能を守り伝えていくために考えていく必要があるのではないだろうか。

神楽がユネスコ登録を目指している件で、昨年、南信濃の公民館に遠山の霜月祭りと天龍村の霜月神楽の関係者に集まっていただいて、宮崎県とオンラインで会議をした。その時に女性参加の問題や、過疎化における伝承をどうするかといったことが意見として交わされた。情報を共有し、同じ悩みを抱えていることを広い範囲で話し合っていくのは非常に大事なことであった。協議会事業で、そういった機会を設けられると良いのではないだろうか。また、地元でやることももちろん大事だが、外で公演、上演をすることも伝承者の方にとっては晴れの舞台として励みになるということもある。今年度の事業の中で風流踊りのユネスコ登録記念として、新野の盆踊りと和合の念仏踊りについて上演する計画になっているが、そういった機会を増やしていくことが大事ではないかと思っている。

以上